

【NPO通信】

インドネシア教育振興会(9) 学生ツアー、収穫期待

2010年6月1日

インドネシアで学校建設など教育問題に取り組むインドネシア教育振興会(IEPF)。同会にインターン登録し、今年9月に行うスタディーツアーで現地を訪れる富山大1年生の宮崎栞(しおり)さんと、同会の窪木靖信代表に、それぞれの思いを語ってもらった。

私はIEPFのインターンに登録し、今年九月のスタディーツアー「LOVE&PEACE TOUR」のリーダーに選ばれた。

高校時代から国際機関で働きたいと思っていた私は、世界から貧困・戦争・惨事をなくすにはどうすればいいのか、そんなことばかりを考えていた。

大学に入学してすぐに、NGOの一員として働くなんて思いもしなかった。これは自分をステップアップさせる大チャンスだと思っている。

私は「インドネシア」という遠い異国のことを最初に聞いたとき、何が何だかわからずに混乱したが、日に日にその異国のことで頭がいっぱいになった。

バリ島のように観光産業が盛んな一面もあれば、教育が行き届いていないという一面もある。そのギャップに驚くと同時に「私たちは何ができるのだろう」といつも夜遅くまで考えている。

私はこのツアーでメディアの伝える裏側をのぞきたいと思う。小学校建設現場へ行き、植樹をして、貧民街の図書館を訪れ、さまざまな人と交流する。

そこに住む人々のぬくもりや、行かなければ分からないことを五感でいっぱい感じたい。周りの人たちへの感謝を忘れず、thinkからactへ方向転換し、私は前へと進み続けたい。(富山大経済学部一年・宮崎栞)

当会では今年実施するスタディーツアー参加者をインターンとして迎えています。大学に入学したての一年生が主です。多くを理解していないこの時期にこそ、インターンの体験で得られるものが大きいと思います。

インドネシアの人口は？ から自分たちで調べ、現地で実施するプログラムの組み立て、調整まですべてを手掛けます。

富山大理学部一年生の武田沙千愛(さちえ)さんは、山間部の貧困地で環境教育をクイズなどで教えようと奮闘。同大文学部一年生の長友増美さんは広告会社で働く夢のために、ツアーポスターなどを作っています。このような手作りツアーを実施できるのは、同大に留学していたDr. ダヌス氏、Dr. ハシム氏のサポートがあるからです。感謝申し上げます。(インドネシア教育振興会代表・窪木靖信)



ツアーの参加者とIEPFインターン＝富山大学五福キャンパスで